



CQM(超短期経済予測モデル)

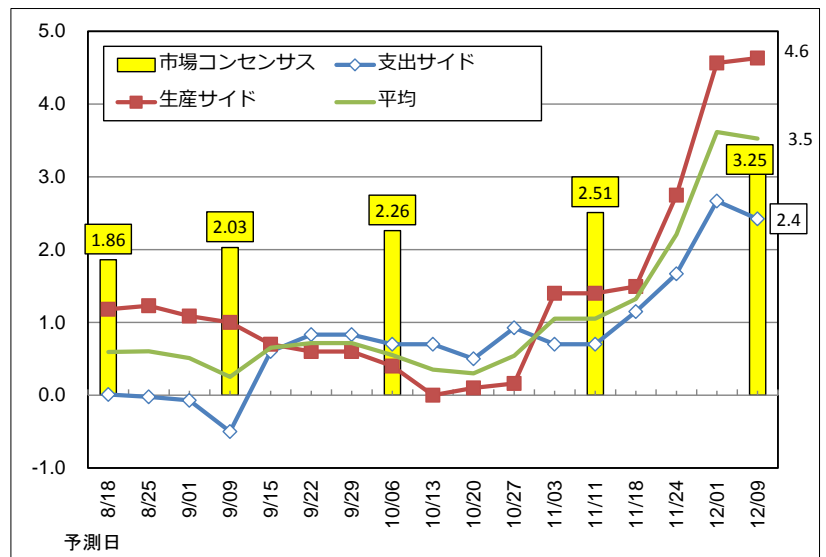
稲田義久 (APIR 数量経済分析センター長)  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2014年12月9日)

## ポイント

- ▶ 今回の予測では、11月の食料安定供給、10月の毎月勤労統計及び国際収支状況が更新された。また7-9月期GDP2次速報値が追加された。
- ▶ 10月の現金給与総額は前年比+0.5%上昇し8カ月連続のプラス。実質賃金は同-2.8%減少し、16カ月連続のマイナス。
- ▶ 10月の経常収支(季節調整値)は7カ月連続の黒字となり、前月比+128.5%増加。3カ月連続のプラス。
- ▶ 結果、今週の支出サイドモデルは、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.4%と予測。先週の予測から小幅の下方修正。10-12月期は純輸出が拡大し、内需も小幅拡大するためである。

**CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率**  
2014年10-12月期(%, 前期比年率換算)



### <純輸出、10-12月期の成長率を押し上げる>

今回更新されたデータは、11月の食料安定供給、乗用車新車販売台数、景気ウォッチャー調査、10月の毎月勤労統計、景気動向指数及び国際収支状況である。また7-9月期GDP2次速報値が追加された。

12月8日発表のGDP2次速報値によれば、4-6月期の実質GDP成長率は前期比-0.5%、同年率-1.9%となり、1次速報値(同年率-1.6%)から小幅下方修正された。マーケットの事前予想では上方修正が見込まれていたが、予想を裏切り下方修正となった。実質民間企業設備と実質公的固定資本形成が下方修正されたためである。

10月の現金給与総額は前年比+0.5%上昇した(前月+0.7%)。8カ月連続のプラス。実質賃金は同-2.8%減少し(前月-3.0%)、16カ月連続のマイナスとなった。

10月の経常収支は8,334億円と4カ月連続の黒字となり、前年同月から9,878億円増加した。貿易・サービス収支の赤字幅が縮小し、第一次所得収支の赤字幅が拡大したためである。季節調整値の経常収支は9,470億円と7カ月連続の黒字となり、前月比+128.5%増加した。3カ月連続のプラス。

結果、今週の支出サイドモデルは、10-12月期の実質GDP成長率を前期比+0.6%、同年率+2.4%と予測。先週の予測(+2.7%)から下方修正となった。10-12月期は純輸出(前期比+0.5%)が拡大し、内需(同+0.1%)も小幅拡大するためである。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690